

平成25年度 鳥取県文化功労賞

受賞記念巡回展

平成26年
1/12日~1/19日

倉吉博物館
(第4展示室)

9時~17時(入館は16時30分まで)
休館日:1月14日(火)

平成26年
1/25日~2/3日

県立博物館
(第1展示室)

9時~17時
休館日:なし

平成26年
2/8日~2/16日

米子コンベンション
センター(情報プラザ)

9時~17時
休館日:なし

入場無料

永田 英正

中国史



坂田 友宏

民俗学



書道 石田 雲鶴

主催/鳥取県

お問
合せ

鳥取県文化観光局文化政策課

電話 0857(26)7839 ファクシミリ 0857(26)8108 E-Mail bunsei@pref.tottori.jp

鳥取県では平成15年度から優れた芸術文化活動により、広く文化の振興に功績のあった方の功績を讃えて表彰し、県民文化の向上に資することを目的として、鳥取県文化功労賞を設置しています。

本巡回展は、平成25年度に受賞された方の功績と活動を広く県民のみなさまに紹介するものです。

《本年度受賞者のみなさん》



永田 英正 (ながた ひでまさ)

中国史(倉吉市)

昭和8年生まれ。
京都大学在学中より東洋史・中国史の研究に力を注ぐ。中国史の中でも漢代研究の専門家であり、木簡研究の第一人者である。平成8年京都大学名誉教授。富山大学、滋賀大学、京都女子大学の教授を歴任する。教育者として後進の育成に努めながら、また自らも研究者として数多くの優れた論文や著書を残している。そうした研究の中には、中国本国で高く評価され、中国語に翻訳されたものもある。10年程前に帰鳥し、漢文を読む勉強会や講演会への出演等で活躍している。また平成24年に、これまでの研究の成果を分かりやすくまとめた著作『漢の武帝』を出版。吉川幸次郎著の『漢の武帝』から半世紀経ち、また新たな視点で武帝を論じるものである。



坂田 友宏 (さかた ともひろ)

民俗学(米子市)

昭和10年生まれ。
昭和57年より、県の文化財保護審議会委員として文化財の保護及び保護思想の啓発に努める。特に専門の民俗文化財については、県内をくまなく調査し、「用瀬のひな送り」、「酒津のトンドウ」、「福岡神社神事(蛸舞式)」等の県指定無形文化財や国指定重要無形文化財である「因幡の菖蒲綱引き」など数多くの民俗事象の文化財指定に尽力した。個別の習俗を集積することにより、学術的・体系的に民俗学を発展させてきた。また第19回鳥取県出版文化賞受賞『神・鬼・墓』や第29回同賞受賞『因伯民俗歳時記』をはじめとする多数の著書は、専門的な質を落とすことなく、一般にもわかりやすい優れた作品となっている。

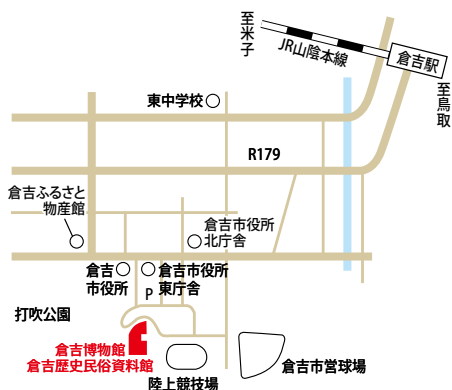


石田 雲鶴 (いしだ うんかく)

書道(鳥取市)

昭和11年生まれ。
高校を卒業後、書を西山鶴洞に師事し、その師であった大阪の尾崎邑鵬の直門となる。平成元年に初の日展入選を果たし、以後10回にわたり入選する。10回目に特選となり、平成16年には2回目の特選を受け、県内在住のまま平成17年に日展依嘱となる。平成20年には日展の審査員となり、平成25年にも2回目の審査員を務めた。鳥取市展や県展の審査員、運営委員を歴任。現在は鳥取書道連盟の副会長や書道連合会の常任理事を務め、また自ら鳥取由源友の会を結成して後進の指導にあたっている。また読売書法展常任理事、日本書芸院董事等の要職も務めている。書は中国清代の書を基本としながら近代性に優れており、多字数の行草書を得意とする。

[各会場へのアクセス及びお問合せ先]



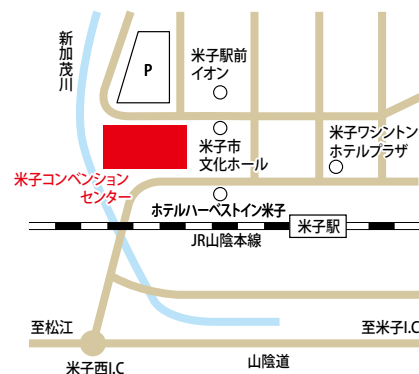
倉吉博物館

倉吉市仲ノ町3445-8
電話 0858(22)4409



県立博物館

鳥取市東町二丁目124番地
電話 0857(26)8042



米子コンベンションセンター

米子市末広町294番地
電話 0859(35)8111